バーンスタイン／キャンディード序曲

ガーシュイン／ラプソディー・イン・ブルー

ドヴォルザーク／交響曲第9番「新世界より」

"CANDIDE" overture
Rhapsody in blue
Symphony no.9
"from the new world"

市川市制 70周年
ホットアート2004
市川市文化祭

第310回市響
「ファミリー交響楽コンサート」

平成16年12月12日（日） 14:00開演

場所：市川市文化会館 大ホール

指揮：金丸克己　　ピアノ独奏：斎藤 龍

管弦楽：市川交響楽団

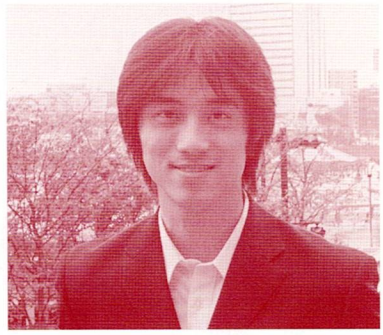
主催：市川市　市川交響楽団協会　千葉交響楽団協会

市響ホームページ：http://www33.ocn.ne.jp/~ichikyo/

本日のプログラム

L. バーンスタイン *L. Bernstein*	キャンディード序曲 *"CANDIDE" overture (1956)*
G. ガーシュイン *G. Gershwin*	ラプソディー・イン・ブルー *Rhapsody in blue (1924)*
A.ドヴォルザーク *A. Dvořák*	交響曲第９番 「新世界より」 *Symphony No.9 "from the New World" (1893)*

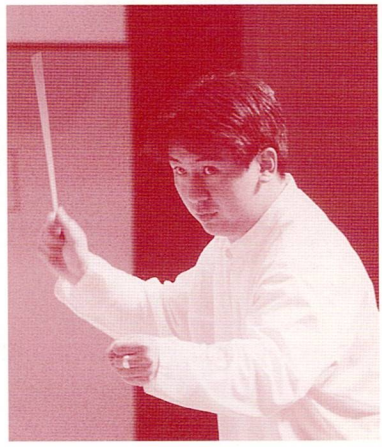
ピアノ・ソロ



斎藤　龍（さいとう●りゅう）

1981年生まれ。神奈川県立希望ヶ丘高等学校を経て2000年東京芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻入学。2004年同声会賞を得て卒業。同声会新人演奏会、ピアノ調律師協会新人演奏会に学校推薦をうけ出演。第11回吹田音楽コンクール入賞、第17回かながわ音楽コンクール第2位。神奈川フィルハーモニー管弦楽団、オンディーヌ室内管弦楽団、横浜市立大学オーケストラと共演。これまでに平尾はるな、加藤美緒子、加藤一郎、小林仁、迫昭嘉の各氏に師事。現在、東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程一年在学中。

指　揮



金丸　克己（かなまる●かつみ）

1973年生れ。大阪府出身。1996年　相愛大学音楽部卒業
大学在学中より指揮活動を開始し、佐藤功太郎、曽我大介、秋山和慶の各氏に師事。
2001年より千葉市民オペラ公演で指揮者のアシスタントを担当。
昨年は神奈川県横浜市で開催された"アマチュアオーケストラフェスティバル横浜大会"に副指揮者として参加し、岩村力氏のアシスタントを務めた。
市川交響楽団では2001年9月より練習指揮者として合奏の指導にあたり、これまでに時任康文、新通英洋、松岡究、早川正昭、森口真司、岡田司ら各氏のアシスタントを務めている。
今シーズンは「行徳文化ホール落成記念演奏会」、「市響・親子オーケストラコンサート」、本日の「ファミリー交響楽コンサート」の3つの演奏会の指揮を受持つこととなった。

管弦楽

市川交響楽団（いちかわこうきょうがくだん）

本年創立53周年目を迎えるアマチュアとしては全国有数の伝統を持つオーケストラ。
メンバーは現在100余名で年齢構成は20代から70代までの幅広い層にわたり、職業も会社員、教員、主婦など多彩。地元市川市での演奏会を中心に全国各地での文化行事やオーケストラ・フェスティバル等にもしばしば招かれ演奏を披露している。また、著名な音楽家との共演も数多く経験しているほか、特に地元ゆかりの音楽家との共演にも力を注ぎ、地域の音楽芸術の振興に多大な貢献をしている。
市川交響楽団は市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、行徳混声合唱団、市響ジュニアオーケストラの各団体とで構成する市川交響楽団協会の中核として"クラシック音楽をより多くの市民に楽しんでもらおう"をモットーに常に積極的な活動を展開している。

先日、11月3日に行われた市川市施行70周年記念式典で私共、市川交響楽団協会の故村上正治前理事長が市川市名誉市民として市川市より顕彰されました。これも市響を支えていただいている皆様方のご協力の賜物と感謝申し上げます。今後とも市川交響楽団協会の活動にご支援を頂きますようお願い致します。

プログラム・ノート

L. バーンスタイン：キャンディード序曲（1956）

理屈抜き、ノリだけで十分楽しめる、あっという間のはじけた曲です。

「キャンディード」は、1759年に出版されたヴォルテールの風刺小説「カンディード」に基づくミュージカルで、これをバーンスタインは有名な「ウエストサイド物語」とほぼ同時期に作曲しました。バーンスタインはこの曲の完成後ニューヨーク・フィルの音楽監督に指名されていますから、ちょうどこの時期がバーンスタインの花が咲く、春真っ盛りだったのでしょう。

歴史的にみると、当時のアメリカはソ連を筆頭とする共産主義勢力との冷戦時代で、エルヴィス・プレスリーが大人気でした。「キャンディード」の内容は「ウエストサイド物語」のような悲恋物語はなく、登場人物は「人生はホント幸せ」と歌う楽天主義者たち。数々の苦難にもその意味を見つけ、最後は「人生に意味のあることを、死ぬまでにはやってみようよ。私たちは純粋でも、賢人でも、善人でもない、だから精一杯やるだけさ」と歌い上げます。

開幕に演奏されるのがこの序曲で、曲はスパークリング・オーバチュアとでも言ったらよいでしょうか、はじける楽想と多彩なリズム、色彩感あふれる響きに満ちあふれ、メロディもメキシカンだったりプエルトリコ風だったりしています。曲の始まりは「戦いの音楽」として劇中で使われるもので、そのあとキャンディードと恋人クネゴンデが「なんて幸せな2人」と歌うメロディが出てきます。これらが2回ずつ繰り返され、最後はクネゴンデのアリア「着飾って、きらびやかに」で華やかに締めくくられます。

G. ガーシュイン：ラプソディー・イン・ブルー（1924）

「ラプソディー・イン・ブルー」の「ブルー」は「ブルース」のブルーです。

アメリカは禁酒法のもと、アル・カポネを代表とするギャングたちが活躍していたころの話。20代のガーシュインは兄アイラの詞で数々のヒット曲を世に送り出していた人気作曲家でした。当時「ジャズ王」と呼ばれていたポール・ホワイトマンに自分のジャズバンドとピアノのための曲を委嘱され、出来たのがこの曲で、だから最初はジャズバンドのための曲でした。当時ガーシュインはアレンジの実力が十分なく、ポール・ホワイトマン楽団専属アレンジャーで「グランド・キャニオン」の作曲者として有名なグローフェが編曲を担当しました。本日はクラシックのオーケストラとソロピアノ用に改めて編曲されたものを演奏いたします。

ガーシュインはこの曲を最初「アメリカン・ラプソディー」という曲名で考えていましたが、兄アイラの提案で「ラプソディー・イン・ブルー」になりました。この「ブルー」とは「ブルー・ノート」といって、ミとラが半音下がった（♭した）ブルース音階の音のことで、ジャズの代名詞としても使われる言葉です。この憂鬱感のある「ブルー・ノート」はクラシックの作曲家にも多くの影響をあたえ、ラヴェルの「ボレロ」の第2主題にもみることができます。

ラヴェルといえば、ガーシュインはその後フランスに留学して、ラヴェルに教えを乞ったことがあったそうで、そのときラヴェルは「二流のラヴェルにならないで一流のガーシュインに」と言って尊敬の気持ちを表したとききます。事実、音楽史的観点から見ると、ガーシュインがヨーロッパの音楽に与えた影響のほうがはるかに大きかったでしょう。その後ヨーロッパではジャズの影響をうけたクラシックの名曲が次々と生まれます。

曲はクラリネットの印象的なグリッサンドで始まり、ジャジーなフレーズが満載。中間部の美しいメロディも聴きどころのひとつです。

A. ドヴォルザーク：交響曲第9番 「新世界より」（1893）

ドヴォルザークが50歳の時、音楽学校の先生として渡ったアメリカから祖国を想って書いた曲です。

時代はリンカーン大統領の奴隷解放から約30年。西部開拓のフロンティアの終了が宣言された2年後、トマス・エジソンがキネスコープという映写機を発明し、ハワイ王国が滅亡したころです。チェコの作曲家ドヴォルザークはニューヨークの国民音楽院に校長として招かれ渡米し、その間この「新世界交響曲」や弦楽四重奏曲「アメリカ」、チェロ協奏曲と次々と名曲を残しました。

あまりにも有名なこの「新世界交響曲」最大の特徴は、当時のアメリカ音楽のエッセンスをドヴォルザーク風に再構築され出来上がっていることでしょう。**第1楽章**は少々長いイントロの後テンポを速めてアメリカ原住民風のメロディとリズムパタンが現れます。中間部のフルートで演奏されるメロディは、心温まるフォスター風のものです。**第2楽章**は「森の中の埋葬」に霊感を

あたえられたコラールではじまり、続くコール・アングレによる哀愁のあるメロディは、たとえ初めて聞いたとしても、どこかで聞いたことがあるとおもえるような名旋律です。後半このメロディは少人数の弦楽器により心に染み入る響きで演奏されますが、まるでドヴォルザークが涙をハンカチで拭うかのごとく、数回途切れます。**第3楽章**スケルッオはアメリカ原住民が踊る森の中の宴会です。それを見てドヴォルザークはまた故郷を思い出したのでしょう。中間部で、ドヴォルザークには目の前の映像にボヘミア風舞曲がオーバーラップして見えているかのようです。**第4楽章**は大地から溢れ出るパワーを思わせるイントロに続き、トランペットとホルンによる高貴で力強いメロディが演奏されます。最後近くでは再び第2楽章のコラールが今度は激しく現れ、自分の祖国チェコを想い号泣するドヴォルザークがいます。そして曲の最後の音は、管楽器の響きだけが弱く残り消えていきます。そのハーモニーの余韻に、ドヴォルザークの望郷の強い想いと涙を感じ取るのは、決して私だけではないはずです。

本日の出演者

【コンサートマスター】
立田祥子

【第一ヴァイオリン】
伊藤大祐
上田佳津子
大橋一郎
大村雅子
大村光子
奥本二美恵
笠松秀臣
河原麻子
鈴木薫
秦一宜
藤原乃律恵
横田富美子

【第二ヴァイオリン】
上原剛介
上原佐貴絵
鎌田真貴
佐分利幸江
富田八江子
永田匡
根守弘和
久田しげ子
深沢武夫
松橋冴子
溝田範子
村上葉子
山田優子
吉岡一郎

【ビオラ】
浅野さとみ
石本恵理
大橋かおる
小名康仁
島信之
高橋奈佳
奈良林弘子
原口博司
星乗昭
若林繁
渡部玲子

【チェロ】
岩田理人
大塚啓子
倉沢倫子
小松高明
瀬川清
田頭扶
中村公一
野中能久
日澤優
福原耕二

【コントラバス】
上村啓介
神代順子
菊池克彦
河本治彦
小西祐作
小林真弓

【フルート】
木村眞諭紀
佐藤洋行
篠原梨恵

【オーボエ】
深町和良
二村直子
本間広樹

【コール・アングレ】
本間広樹

【クラリネット】
一瀬直美
佐藤幸江
関山志保
時田雄

【バス・クラリネット】
小川幸子

【バスーン】
伊吹直子
遠藤由紀子
金坂哲
菅原斉

【コントラ・バスーン】
大矢哲雄

【サクソフォン】
忠地美幸
宮崎裕二
渡辺婦美子

【ホルン】
木下泰斗
近藤利昭
潮見恵子
林田朋子
藤井茂司
山内正晴

【トランペット】
酒井崇行
吹田容子
西岡宏

【トロンボーン】
新井恵美
上田浩平
坂田圭
鈴木宏明
宮坂郁
藪崎裕至

【チューバ】
渡邉鉄雅

【打楽器】
大澤香奈
鈴木充
都筑裕
春田美穂子
和田英恵

【ハープ】
小橋ちひろ